

作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
経営学部経営学科	森 亮太	2024年 5 月 1 日

【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

【前期担当科目】

経営学総論A(経営学科)(2回分を担当)
 経営学総論A(スポーツマネジメント学科)(2回分を担当)
 会計学総論A(経営学科)(中級クラス)
 会計学総論A(スポーツマネジメント学科)(中級クラス)
 簿記論A(経営学科)
 簿記論A(スポーツマネジメント学科)
 財務諸表論A(経営学科)
 財務諸表論A(スポーツマネジメント学科)
 プレインターンシップ
 基礎ゼミナールI(経営学科)(dクラス)
 研究ゼミナールI(経営学科)
 研究ゼミナールI(スポーツマネジメント学科)
 研究ゼミナール3(経営学科)
 研究ゼミナール3(スポーツマネジメント学科)
 研究ゼミナール5(経営学科)
 研究ゼミナール5(スポーツマネジメント学科)
 簿記講座(資格取得支援室講座)

【後期担当科目】

会計学総論B(経営学科)(中級クラス)
 会計学総論B(スポーツマネジメント学科)(中級クラス)
 簿記論B(経営学科)
 簿記論B(スポーツマネジメント学科)
 財務諸表論B(経営学科)
 財務諸表論B(スポーツマネジメント学科)
 プレインターンシップ
 基礎ゼミナール2(経営学科)(dクラス)
 研究ゼミナール2(経営学科)
 研究ゼミナール2(スポーツマネジメント学科)
 研究ゼミナール4(経営学科)
 研究ゼミナール4(スポーツマネジメント学科)
 研究ゼミナール6(経営学科)

研究ゼミナール6(スポーツマネジメント学科)

簿記講座(資格取得支援室講座)

【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

楽しいこと、好きなことは誰もが熱中するものであると考えている。そのため、世の中の多くの事柄について好きになり、楽しんで取り組んでもらいたい。また、学生は、得てして資格の取得等、短期的に役に立つものに惹かれがちであるが、すぐに役に立つものはすぐに役に立たなくなる。人生 100 年時代においては、今後 80 年の人生に通用する、生きる力が必要である。

そのため、大学卒業後も、豊かで多幸感あふれる人生を送るために、大学で出来ることを大事にしていきたい。

【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

会計を学ぶことによって、楽しいと思ってもらうためにも、講義では、取引等の具体的なイメージがわくように、身近な例を用いる説明を心がけている。また、授業の内容に関連する、興味を持ちそうな話、実務の裏話等を盛り込み、学習のモチベーション向上を意識した授業を行っている。そして、じっくり考えることや、気づきの喜び・楽しみを伝えるため、時には学生に質問を投げかけ、学生自身に考えてもらう事を重視する。

特に、簿記検定等、資格取得の学習は、表面的な知識詰め込み、暗記偏重となりやすい。極端な知識詰め込みや暗記偏重は、人格形成にも支障を来しかねない。そのため、制度背景や実務の話、問題点や他の知識・論点との関係を説明し、学生に出来るだけ形式的暗記では無く、理解の上に考える力を養う教育を心がけている。

更に、グループワークを積極的に取り入れ、学生のコミュニケーション能力の向上を図り、社会人として素養を意識した講義を行っている。

このような学習を隔て、自ら興味を持ち、主体性を持って取り組み、社会における自身の役割を見いだしてもらう事を目指している。

【成果】(その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど)

就職活動中の学生からは、就職後のイメージが付き、就職活動もやりやすかったとのコメントを頂いた。また、企業に就職した学生からは、講義で取り扱った内容を実務で行っていることから、大学での取り組みが繋がりが、やりがいを感じているとのコメントを頂いた。

他方で、資格取得を目指している学生からは、制度背景や実務の話をする、無駄な話と切り捨てられる事もあった。制度背景や実務的な内容は、表面的な知識より重要であるが、まだまだ知識詰め込み型の学習を止められない状況である。

グループワークに関しては、学生間のコミュニケーションが強化された面もあったが、トラブルもあった。対人関係のトラブルを乗り越える事もまた大きな成長ではあるが、事前に回避できるトラブルは教員側でも対策可能であり、そのような対応策等に関する知見も得ることができた事は大きい収穫であった。

【目標】(今後どうするか)

就職活動等、目先の活動に役立つ資格取得も重要ではあるが、その先 80 年の人生を見据え、生きる力を涵養する教育を心がけて生きたい。

大学 4 年間のみならず、その先にも本学のネットワークが維持・構築・発展されるべく、学生・教職員含めた人間関係の形成に寄与していきたい。